

セミナーにおける各班の調査・確認事項 (案)

セミナーの進め方（案）

【第1回勉強会（5／17）】

- 1 基礎情報の把握
- 2 班員の自己紹介
- 3 各班のテーマに応じた視点、注目点の整理
- 4 米軍への質問事項の整理

【第2回勉強会（6／7）】

- 5 セミナーに向けた調整、確認

【マーシー寄港（6／17）】

- 6 船内見学、日米共同災害医療搬送訓練・船内オペレーション見学、米側アドバイザーも交えたディスカッション

【シンポジウム（6／19）】

- 7 班長が発表、米側関係者も交えたディスカッション

【とりまとめ（7月）】

- 8 レポート提出（全班員）

各班の学習、取りまとめの手順（案）

I 班 病院としての能力

- <手 順> i) 事前に基礎資料等を用いた勉強会を通して、マーシーの保有する各機能、スペック等について、基礎的な知識をあらかじめ習得するとともに、セミナー当日に米側に確認すべき質問事項をとりまとめておく。
- ii) 寄港時の船内見学及び訓練・オペレーション見学、その後の米側アドバイザーとの質疑応答を通じて、災害時におけるマーシーの診察能力、療養環境評価、患者収容動線、専門人材養成方法、船内の備蓄・ライフラインの設備等を整理する。
- iii) マーシーの知見を踏まえ、主に、日本における病院船機能への課題として示唆が得られた点を班内ディスカッションを経て、とりまとめる。

II 班 災害時の運用方法

- <手 順> i) 事前の基礎資料等を用いた勉強会を通して、マーシーの災害時の運用方法について、基礎的な知識をあらかじめ習得するとともに、セミナー当日に米側に確認すべき質問事項をとりまとめておく。
- ii) 寄港時の船内見学及び訓練・オペレーション見学、その後の米側アドバイザーとの質疑応答を通じて、マーシー船内における災害時の指揮命令系統、災害医療活動全体のコーディネートにおけるマーシーの役割、搜索救助活動をはじめとする他のオペレーションとの連携等について、整理する。
- iii) マーシーの知見を踏まえ、主に、既存船舶を活用した訓練への示唆を含む、日本における災害時の病院船の運用への課題として示唆が得られた点を班内ディスカッションを経て、とりまとめる。

III 班 平時の運用方法

- <手 順> i) 事前に基礎資料等を用いた勉強会を通して、マーシーの平時の運用方法について、基礎的な知識をあらかじめ習得するとともに、セミナー当日に米側に確認すべき質問事項をとりまとめておく。
- ii) 寄港時の船内見学及び訓練・オペレーション見学、その後の米側アドバイザーとの質疑応答を通じて、マーシーの年間を通じた活動について、整理する。
- iii) マーシーの知見を踏まえ、主に、日本における平時からの病院船の運用への課題として示唆が得られた点を班内ディスカッションを経て、とりまとめる。

※ I～III 班の分野は重複する分野もあることから、上記の内容は期待する議論の主な内容であり、班内で幅広い議論をいただくことはさしつかえない。

◆セミナーの柱◆

「オブザベーション（観察）」と「アセスメント（評価）」

例

- | | | |
|-------|------|------------------------------|
| I 班 | （観察） | 「マーシーの災害時の病院としての機能及び対応能力」 |
| | （評価） | 「日本における病院船機能への課題」 |
| II 班 | （観察） | 「マーシーの災害時の運用方法」 |
| | （評価） | 「日本における災害医療への船舶の活用と病院船運用の課題」 |
| III 班 | （観察） | 「マーシーの年間を通じた活動」 |
| | （評価） | 「日本における平時からの病院船運用への課題」 |

<シンポジウムでの班長の発表資料の構成例>

- 1 セミナーにおいて、○班として注目した点
- 2 セミナーを通じて「マーシー」についてわかったこと
- 3 日本の災害医療に係る船舶運用と課題